

水と緑の



みず・みどい
みまもり はぐくむ
森があき

森づくり

冬号

2006.1

Vol.3



「水と緑の森づくり」記念講演会が行われました。

12月11日(日)に浜田市の「いわみーる」で、
「水と緑の森づくり」記念講演会が行われました。

当日は日本大学生物資源科学部の木平^{このひら}勇吉教授と神奈川県自然環境保全センターの中川重年専門研究員をお迎えして「県民参加の森づくり」をテーマに講演をいただきました。

木平教授からは、県民は森づくりの作業だけでなく、計画策定の段階から参画することが必要であること、また、行政や専門家も持っている情報を公開し、わかりやすく解説して多くの県民が森林に関心を持ち、発言できる場をつくることを提言された。

また、中川専門研究員からは、竹林を整備した後、その竹を利用してバウムクーヘンを作ったり、間伐した根曲がり木から、アルプホルンを作ったりした事例を紹介していただき、森づくりの楽しさをしっかり伝えていただきました。

当日来場された150人の参加者は、映像やマンガを用いた2人の講演を、和やかな雰囲気の中で聴講されました。

(詳しい内容は

<http://blog.goo.ne.jp/f-hamada/m/200512>でご覧いただけます。)



間伐材で作った
アルプホルンを吹いていただきました
きれいな音色に聞き入りました



マンガの画像を使ってわかりやすく話しかける木平教授



自ら実践している森づくり活動の楽しさを伝える
中川専門研究員

森づくり・資源活用実践事業の取り組み

県民の皆さんのアイデアと参加による、森づくり・資源活用実践事業の第2次募集分の事業が決定しましたのでお知らせします。

平成17年度 第2次決定事業10件

分野	取組の名称	事業概要	実施団体
森づくりボランティア	雲南市木次町湯村「温泉神社」裏山整備事業	雲南地方の荒廃した山や道路河川沿線に四季折々の色彩を放つ花木を計画的に植栽し、年間を通して景観の浄化に努め、魅力ある地域を創出する。今回、ヤマタノオロチ伝説ゆかりの温泉神社周辺の竹林整備跡に広葉樹を植栽する。	雲南花舞台を実現する会
森づくりボランティア 森づくり講座	森を育て次世代に伝える運動in中須	過去先人が構築された防砂防風保安林を管理してきたが、森林火災により焼失し、このまま放置すれば、会員のボランティア活動意識が低下する。よって、植栽や、不要木の伐採などによる防風林の復旧に併せ、周辺の森林保全対策や森づくり講座も行い、地域の豊かな生活向上と環境改善のため、「森づくり」を推進する。	益田市中須自治会
森づくりボランティア 森づくり講座	森を育て・森を蘇らせる運動	過去、先人達が守り育ててきた防風林が、松くい虫等害虫の被害と、塩害、風害等の自然環境がもたらした影響により枯死し、荒廃したため、植林などにより元の防風林に蘇らせ、我々が受けた恩恵と自然の大切さを活動を通じて次世代へ継いでいく。	益田市戸田自治会
森づくり講座 木材利用	列状間伐体験イベント“レッツ！カンパツ！”	間伐手遅れ林の放置による森林機能の低下が叫ばれている昨今、一般住民が利用間伐（列状間伐）の作業形態を見学したり、ノコなどの用具を使っての作業や下層へのヒノキ苗の植栽を通じて、間伐の重要性や森林育成の必要性、列状間伐によって生産された木材を利用することが地球環境の保全に大いに役立つことを広く啓発する。	浜田地方林業研究グループ連絡協議会
森づくり講座 木の利用講座	知っとこ森の仲間達・食べて納得椎茸づくり	指定管理者制度による「人と人のふれあいを大切にした地域密着型の管理・運営」をモットーに、公園内の雑木林の間伐や下草刈り、植生調査などを、ボランティアを募り、一緒に守り育てながら、森林の大切さを理解し、植物や野鳥の観察などを通して、四季折々の自然教室や観察会などを実施する。	島根県立万葉公園（益田市）
木材利用	景観型木材ガードレール付替事業	吉田公園は郷土の生んだ彫刻家内藤伸の設計で、田部家と村民の労力により建設された自然や地形を生かした公園である。今回、公園下のガードレールを景観にマッチした木製（県産材）にすることにより、公園と吉田町の街並みエリアを自然と歴史あふれる空間として整備・PRし、交流促進や地域活力を生み出す。	吉田公園クラブ（雲南市）
木の利用講座	木ふれあいクラブ	木（島内産材）に親しみ、木の持つ他の素材（鉄、プラスチック等）とは違った木の感触を肌で感じ取り、参加者それぞれに思い思いのイメージで木の感性を作品で表現する。また、完成した作品を一般に展示することにより広く木の持つ良さをアピールする。	木工教室「トントン塾」（隠岐の島町）
木の利用講座	親子ふれあい木工教室	「水と緑の森づくり事業」を通して、森林を身近に感じてもらい、広く、私たちの暮らしに大きく関わりある森林を、守り育てていく意識の輪を広げる。講座内容は、森づくりや、木の話などを併せた、県産間伐材を利用した木工教室	出雲地区森林組合（森の仲間と共催）
木の利用講座	島根県産森林バイオマスの利用講座	島根県内の森林バイオマスの有効利用及び利用促進を実現させるために、老若男女を問わず県民のオープン参加による県産森林バイオマスの見学・体験ツアーを実施する。併せて県民が容易にかつ気軽に森林バイオマスに触れる場や、質問・相談が常時気軽にできる体制を整える。	しまねの木を利用する会（松江市）
木の利用講座	体験講座「チャレンジ2005」	森林を活かした野外教育として、県産材を利用した木工製品の親子作成により物づくりの楽しさを体験し、作品を作り上げた充実感や感動を共有し、森林の大切さや自然とともに暮らすことへの理解を深める。	青原地域子ども連合会（津和野町）

列状間伐体験イベント“レッツ！カンパツ！”

浜田地方林業研究グループ連絡協議会



山で働く大きな機械を見学したよ。



枝打ちロボット。初めて見たよ。



間伐された森林の中は明るいなあ。



ちょっとブレイク
パウムクーヘンを
焼いてみました



森づくり推進事業(県実施事業)の取り組み

「森づくり体験ツアー」 浜田農林振興センター 11月5日(土)

11月5日(土)に浜田市弥栄町で、島根県浜田農林振興センター主催の森づくり推進事業「森づくり体験ツアー」が行われました。

親子を中心とした約30名の参加者は、県浜田合同庁舎からバスに乗って、一路弥栄町内の山林へ。現地では、クヌギ、シバグリ、ヤマザクラなど200本の苗木を植えました。

その後、同町内にある(財)島根県西部山村振興財団の木材加工施設で木工体験を行い、家族一緒に写真立てを作っていました。

参加された皆さんは、木を伐って使い、その跡地に木を植え、それを育て、また伐って使うというサイクルによって、森林は守られていくことを学びました。

木を植えて...



木を使う...



「水と緑の植樹祭」

隠岐支庁農林局 11月17日(木)

隠岐の島町では、島根県隠岐支庁農林局主催による植樹祭が11月17日(木)に行われました。

当日は地元中条小学校の子どもたちや、地域の方々など約50名が参加し、隠岐島後最大の水源「銚子ダム」の集水区域である大満寺山中腹に、ミズナラ、ヤマザクラ、ヤマグワ、スギなどを植えました。

また、このように木を植えて育てる取り組みが、森林の水源かん養機能を高めるだけでなく、豊かな海づ

くりにもつながっていくことから、おき西郷漁協の皆さんも参加して、次代を担う子どもたちと一緒に森づくりを行っていただきました。



水を育む森になるように、苗木を植えて森づくりに取り組む子どもたち

森づくりのリーダー“森づくりプロデューサー” 養成研修始まりました!

12月17日(土)と18日(日)19名の方が受講

島根県では、「水と緑の森づくり」の取り組みを進めるにあたり、県や関係機関、森づくりボランティア等と協力して、県民主体の森づくりの基盤づくりを行っていただく「森づくりプロデューサー」の養成研修を始めました。

第1回目の研修は、12月17日(土)と18日(日)に県立緑化センター等で行われ、県内各地域から応募された19名の方が受講しました。

研修は、「水と緑の森づくり事業の目的」「森林の持つ多面的機能とそれを発揮させる施業」「島根県の目指す森づくりの将来像」「県産材の活用方策」「森林環境教育」など様々な内容となっていました。

研修生の皆さんは、お互いの交流を深めるとともに、これまで自ら取り組んできた経験などをもとに、積極的に意見を出し合い、それぞれの森づくりへの強い思いが感じられました。

今後、2月に行われる第2回目の研修を終了してから、第1期の「森づくりプロデューサー」に委嘱され、次世代に引き継ぐ島根の森づくりのリーダーとして各地域で活躍していきます。

開講式の様子



井ノ上 主席林業普及員 (島根県林業課)



コミュニケーションづくりのために
ちょっとウォーミングアップ



中山 主幹林業普及員 (島根県林業課)



川村 主任 (財)キープ協会環境教育事業部

こんなところでPR! 「水と緑の森づくり」



ベンチでPR!

旅行や買い物途中で“どっこいしょ”
県産材のベンチに座って島根の森を感じましょう!!



島根県で育った木を使ったベンチやパンフレット置き、荷物置きを作成し、JRの駅や、スーパー、銀行などに設置しています。

旅行や買い物の途中でちょっと一息腰をおろしてみませんか。

この木が育った森の様子を思い浮かべながら、やさしい木のぬくもりを感じてください。

木を使うことは森林を壊すことではありません。

森林は、木を伐って、木を植えて（または自然に種が運ばれて木が生えて）、木を育てて、また木を伐って、木を使う。このようなサイクルの中で機能を発揮できる状態に保たれています。

R9を歩いてPR!

12月3日(土)に有志7名で国道9号線を歩いて、「水と緑の森づくり」をPRしました。

一行は黄色いのぼりを手に持って、朝9時に県庁を出発。途中、コンビニやガソリンスタンドなどでポスター、チラシをお願いしたり、道行く方に「みーもくん」のシールを手渡したりしながら、「水と緑の森づくり税」を使った取り組みをPRしました。

事前の予報とは違い、風は強いながらも晴れ間なのぞく中、23kmを全員が完歩し、午後3時に松江市宍道町の県立緑化センターに到着しました。その後、近くの山でヤマザクラなどの植樹も行いました。

出会った方々にいろいろな意見をうかがいました。ありがとうございました。

R9でPR!





クロスワードパズル

4回分の答えの一字ずつを組み合わせてクイズに応募しよう!!

ヨコのカギ

- ①季節に応じて衣服を着替えます
- ⑥門松を——の脇に立てる
- ⑦支え助けることです。介護には、こんなシステムも必要
- ⑧雨宿りに借りますよか
- ⑩無言のままでも取り合わないんだ
- ⑫夏の夜、浴衣姿で踊ろうよ
- ⑬いよいよ開幕! 野球の、投げることと打つこと
- ⑮物事や話の筋道です
- ⑯ご祝儀には2で割れないが数が多い
- ⑰願いを書いて神社へ奉納
- ⑱寄せては返す波、潮の香。夏休みと言え
- ⑲節分に、「福は内、鬼は外」
- ⑳干物は美味しい魚です
- ㉑正月7日に炊く、——粥
- ㉒花が開く日です
- ㉓いやでも務めなくてはならないつきあいだけど…
- ㉔好きな男性にチョコを贈って告白する日です

タテのカギ

- ①屋根より高く五月の空を泳ぎます
- ②ひな祭りは、——の節句
- ③崩した豆腐に野菜を加え油で揚げました
- ④あの遊園地はデート——
- ⑤お正月、子供だけの特権
- ⑦七夕に五色の短冊を飾ります
- ⑨11月23日は、——感謝の日
- ⑪サンタクロースがやってくる日は?
- ⑭鉢植えにした小さな木
- ⑰鶯が似合う花木です
- ⑲食欲が増す、——の秋
- ㉑この上で包丁を使います
- ㉓夏の土用に食べるんだ
- ㉔秋にとれたものが特に美味しい魚です
- ㉖美しく花を生ける器
- ㉘しばらく——を潜めていたが最近出没する空巢
- ㉚アルミにスチール、分別してリサイクル
- ㉜しじみ、あさり、さざえ

1		2	3		4		5
		6			7		
8	9		10	11			
12						13	14
15			16		17		18
	19	20		21		22	
23		24	25				26
27	28				29		30
31			32				

この季刊誌は年4回発行します。4回分の答えの二重ワケ内の文字をつないだ言葉を応募してください。正解者の中から抽選で粗品をプレゼントします。応募方法は、第4号でお知らせします。



ソヨゴ (モチノキ科)



ソヨゴは里山に普通に見られる常緑樹で、やや乾燥した尾根筋などに多く見られます。最近では庭木や公園の緑化木などとして植えられることもあります。秋から冬にかけては赤い実をつけ、雪の中でもよく目立ちます。実が赤いのは、雪の中でよく目立ち鳥に食べてもらうためと考えられています。実を食べた鳥は、糞とともに種を遠くにまき散らし、子孫を広げてくれるのです。ふだんの年なら今ごろはほとんどの実が鳥たちに食べられていますが、今シーズンは多くの山の実が豊作のため、食べられずに残っているものも多く見られます。

ソヨゴの名は、葉がこすれ合って出す「ソヨソヨ」と聞こえる音から名づけられています。ソヨゴの葉は硬く縁が波を打っているため、風に吹かれてこすれ合うと「ソヨソヨ」と聞き取れる音を発するのです。この木を見つけたら、枝をゆすって実験してみるとよいでしょう。